

【報告】第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会に参加して
つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ
～ 地域とともに はぐくむ力 兵庫から ～

8月23日（金）、24日（土）の両日、兵庫県内の10か所を会場に、日本PTA全国研究大会が開催され、私たちも姫路市での特別第1分科会並びに神戸市での全体会に参加させていただきました。
 以下、分科会、全体会のようにご紹介いたします。

◆ 特別第1分科会

《研究課題》

「いじめ」なんてかっこわるい!

～我が子を当事者にさせないために～

基調講演

国立大学法人上越教育大学大学院
 教授 高橋 知己 先生



※分科会アトラクション フレッシュで清々しい演奏でした。

○ 「いじめの未然防止、早期発見のために考える。」のテーマのもと、未然防止のカギを「生徒の要因、教師の要因、発見方法の不備」の3つの要因に分けて、「いじめに気づいてあげるために」「いじめを未然に防ぐために」の2つの枠組みから、参加者との対話をはさみながら分かりやすい講演が行われました。また、後半は、高橋先生をコーディネーターに、4名のパネリストの皆さんと、1) 被害者、加害者、聴衆、傍観者として見た心理的状况、2) いじめに繋げないために家庭・学校・地域でできること、3) 多様化するいじめの芽を摘み取るためにはの3点を軸に話し合いが行われました。

【高橋先生の講演から】

- 1つの理由のみではなく、複合的な理由からいじめは見えにくくなっている。また、周囲が気づきにくくなっている。だからこそ、あらゆるチャンネルからいじめを発見したい。それには、家庭と学校が繋がること、保護者同士が繋がるのが大切です。
- 孤立を生みかねない現代の「自立」についての考え方を変えましょう。「自立」とは、日常生活を誰にも頼らず、一人で活動することではありません。そういう「自立」への思い込みが、子どもたちに焦りを生み、孤立感を深めます。また、限られた人間との共依存関係を生んでしまい、困ったときの他者への援助要請を困難にしています。自立とは、誰にも援助を求めないことではなく、援助を求める相手を増やしていけるようになることを言います。
- 子どもたちのために、自分たちが考えて、自分たちの取り組むべきローカルな実践方法を生み出していきましょう。その小さな活動の繰り返しが、子どもと自分の学びに繋がっていきます。そして、「かけがえのない存在である」ことを子どもたちにも、自分にも伝えていく、そこからいじめの予防は始まります。

※ 写真撮影不可のため、写真を撮ってのご紹介はできませんでした。ご容赦ください。

◆ 全体会 (神戸市ワールド記念ホール)



《開会行事》

日本PTA全国協議会

佐藤 秀行会長よりのあいさつ

《記念講演》

子育ては、心理学でラクになる。

メンタリスト DaiGo

